

コウノトリと共生できる
地域を全国・世界に広げる

日本コウノトリの会事務局

ながせこうた
永瀬倖大さん

姫路市出身。大学を卒業した2017年、地域おこし協力隊として豊岡市の「ハチゴロウの戸島湿地」に着任し、コウノトリの生息地の保全活動等に取り組む。活動終了後の現在は、2016年に設立し同湿地に事務所がある「日本コウノトリの会」の事務局として、コウノトリと共生できる地域づくりを推進している。



日本コウノトリの会では、コウノトリのえさ場や生きものの生息場所となる湿地づくり、コウノトリが子育てできるような人工巣塔の建設、コウノトリの目撃情報を収集・公開する取り組みを全国的に展開し、コウノトリと共生できる地域を広げる活動を行っています。直近では今年3月、韓国の市民団体と共同で対馬に巣塔を建てました。

戸島湿地や休耕田での湿地作業は大変ですが、企業やボランティアの皆さんと一緒に作業は楽しく、何より鳥が飛んで来るなど、生きものが反応してくれるとその苦労が報われます。私たちの目的はコウノトリが住むことができる環境を整備することですが、その環境とは、他の生きものにとっても住みやすい場所をつくることです。コウノトリを突き詰めていくと、他の生き物にもおのずと目が向くようになりました。

野生復帰の取り組みは全国に広がりつつあります。さらに、この取り組みが全国・世界に広げられるように私たちも積極的に携わっていききたいです。

Toyooka Topics —とよおかの“旬”な話題—

地元産のそば粉を「4たて」で味わう
「出石新そばまつり」で観光客が舌鼓



晴天に恵まれた11月8・9日、出石庁舎前で「出石新そばまつり」が開催されました。コロナ禍の影響で4年ぶりの開催です。各店舗の職人が一堂に会してそば打ちを披露し、出石そばの信条である「挽きたて・打ちたて・茹がきたて」に加え、この秋収穫された「採れたて」の新そばが提供されました。大阪から訪れた女性は「出石そばの味が忘れられず、家族を誘って来ました。今日は3人で8人前頼みました」と話し、新そばの香りを楽しんでいました。

コウノトリとふれあいながら
秋を楽しんだ「コウノトリ感謝祭」



コウノトリとの共生を目指す取り組みをPRするため、11月12日、郷公園周辺で「コウノトリ感謝祭」が開催されました。訪れた人たちは生態などの解説があるコウノトリ野鳥観察会や、園内を散策するスタンプラリーなどに参加し楽しんでいました。千葉県から偶然旅行で訪れ、野鳥観察会に参加した親子3人は「双眼鏡を使った観察は初めてでした。コウノトリは想像していたよりも大きく、羽を広げた姿にとっても感動しました」と興奮気味に話していました。

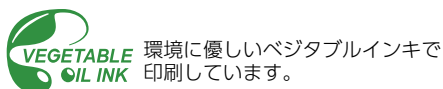
豊岡市 SNS



各施設・事業の SNS



※広報とよおかは豊岡市公式ホームページやスマホアプリのマチイロでも読むことができます。



環境に優しいペジタブルインキで印刷しています。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

